

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	5 教育内容等の改善措置
中項目	
小項目	5.0.1 教育内容等の改善措置
要素	①教育の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究が、組織的かつ継続的に行われていること。 ②会計大学院における実務家教員における教育上の経験の確保、及び研究者教員における実務上の知見の確保に努めていること。

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 広く教員が情報共有できるしくみを構築する。	→教員相互の研究発表によるFD研究会の開催回数・参加者数、FD講演・セミナー等の開催回数・参加者数	C	C	B	B	B
2. 実務家教員における教育上の経験及び研究者教員における実務上の知見の確保のしくみを構築する。	→授業参観およびFD研究会の開催回数	C	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員が参加しやすいように、教授会後に、教育方法等に関するFD研究会を2回開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か FD研修会を開催し、経営戦略専攻と会計専門職専攻のそれぞれの教員による発表と、参加者全員による質疑応答を行った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 授業評価アンケートの分析結果を踏まえたFD研究会や、専任教員相互授業参観・意見交換会を企画する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか FD研究会において、教員相互の研究発表を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か FD研究会での研究発表および質疑応答をつうじて、実務家教員にとっての教育上の経験および研究者教員にとっての実務上の知見の確保が図られた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD研究会あるいは専任教員相互授業参観・意見交換会の実施を、適宜、検討する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆